



奉仕を通じて

平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：松波 恒彦
幹事：平野 好道
クラブ委員長：犬塚 達郎
例会日：毎週木曜日 PM12:30~
会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1600回例会

2013年5月30日(木) 雨 第44回

~出席奨励月間~
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

司会：高木元明会場委員
斉唱：「それでこそロータリー」
ゲスト：第17回ザ・チャレンジドゴルフトーナメント厚生労働大臣杯全国身体障害者ゴルフ大会チャンピオン 小野功次郎さん

会長挨拶

松波恒彦会長

会長になって11ヶ月の間、大変なことも沢山ありましたが、良いことも沢山ありました。

先日、名古屋城の本丸御殿の内覧会に名古屋瑞穂RCの会長としてご招待頂き、行って参りました。先月は熱田神宮の創祀千九百年大祭にもご招待頂きました。こちらは100年に一度のイベントなので、次回の創祀二千年大祭には誰も参加できませんから、名古屋瑞穂RC会長として参加できたのは私だけになります。



名古屋城は私が小学校6年生の時に出来、今から約53年ほど前、伊勢湾台風があった年に学校から見学に行った記憶があります。当時の第一印象は『コンクリートの城』だと思いました。しかし、今回の内覧会では本丸御殿の玄関や書院の部屋を拝見しましたが、金銀と大変煌びやかな襖や竹林豹虎図のコピーが展示してありました。本物の竹林豹虎図もガラスのケースに入って展示されており、年代を感じる「狩野派」の絵師たちにより描かれた作品が沢山展示してありました。

私は来月で66歳になりますが、内覧会ではじめて狩野探幽の名前を「探幽」と書いて「たんにゅう」と読むことを知りました。当時「幽」と書いて「にゅう」と読んでいたのは定かではないのですが、展示のルビがそのようになっていました。

本丸御殿には寄付をした方の標があったのですが、一緒に拝見していた家内から「瑞穂RCの名前がない」とお叱りをうけてしまい、早速今日は振り込み用紙を持ってきましたので、ご協力を宜しくお願いします。

ご静聴ありがとうございました。

幹事報告

平野好道幹事

- ・5月30日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて次年度予定者会議を行います。
- ・6月3日(月)8:48より名古屋ゴルフ倶楽部和合コースにて豊橋ゴールデンRCとの交流ゴルフコンペを行います。

出席報告

鶴田浩出席委員

会員63名 出席41名 (出席計算人数48名)

出席率 87.3%

5月23日は補填により 96.4%

ニコボックス

鶴田浩ニコボックス委員

- ・5月は結婚記念日と私の誕生日でした。堀 慎治さん
- ・6月1日は76才の誕生日ですが数えて数えると77才の喜寿になります。いよいよ80才に手が届いて来ました。余生を楽しみます。平野哲始郎さん
- ・5月29日は結婚記念日でした。長瀬憲八郎さん
- ・遅くなりましたが、5月は結婚記念日です。市岡 正蔵さん
- ・家内の誕生日にきれいなお花を頂きありがとうございました。増田 盛英さん
- ・先日は妻の誕生日にきれいなお花を頂き、ありがとうございました。たいへん喜んでいました。湯澤 勇生さん
- ・妻の誕生日にきれいな花をありがとうございました。高木 元明さん
- ・今日は、全国身体障害者ゴルフ大会チャンピオンの小野功次郎さんをお迎えしています。宜しく願います。梅村 昌孝さん
- ・あと1ヶ月です。早く7月が来ないかなー！松波 恒彦さん
- ・1600回例会を記念して。宗宮 信賢さん
- ・1600回を記念して。岩田 吉廣さん
- ・1600回おめでとございます。鈴木 淑久さん
- ・会社倉庫屋根に『太陽光パネル』を設置しました。中電に毎月550万円電力料金を払っているの、たとえ10万円強でも入金があるとノンマリします。岡村 達人さん
- ・ロータリー忙しいです。会社暇です。高須 洋志さん

卓話

小野功次郎さん

ザ・挑戦(軟骨肉腫と障害者ゴルフ)

皆様初めまして。小野功次郎と申します。本日はこのような素晴らしい会で講演する機会を頂き感謝いたします。

私は現在三重県桑名市に在住し、仕事はいなべ市にある住鋳潤滑剤株式会社という特殊潤滑剤の製造、販売をしている会社に勤めております。



見た目は普通のサラリーマンですが、少しだけ皆様と違う所があります。私は右足が無く、義足を装着し生活しています。本日はこの義足になった原因の病気と、日々挑戦し続けている身体障害者ゴルフについてお話をさせて頂きます。皆様方に何か少しでもお役に立つことができれば幸いです。まず障害となった病歴についてお話いたします。

1999年39才の時、右足膝上に痛みのない小さな腫れを見つけ、後になって手の拳大まで異常に大きくなったため、地元の病院で摘

出手術を行いました。この腫瘍の判断を仰ぐべく三重大学医学部付属病院にて診断してもらったところ、悪性と分かり診断時は自分がガンになったとは考えられなかったため、告知されたときは頭が真っ白になりました。

病名は右大腿骨軟部腫瘍、詳しくは骨外性粘液型軟骨肉腫という珍しい病名で、今回は腫瘍の周りの筋肉を大きくとる広範切除術及び放射線治療を行いました。術後、桑名市民病院に転院し、骨と筋肉、筋肉と皮膚が癒着しているためリハビリにて徐々に剥がしていきましました。気合と根性の世界を実感した約3ヶ月のリハビリ期間でした。

それから2003年、手術した所の反対側に再発してしまい、この治療は同大学病院にて腫瘍を取った後に化学療法(抗癌剤)を行いましたが、この化学療法は壮絶な闘いでした。吐き気、悪心、3時間毎のおしっこ、もちろん髪も抜けてしまい、クリーンルームでの下痢等と人生の中で一番しんどい時期で、入院の約3ヶ月間は精神力と気力の重要さを痛感した治療でした。

2004年に同じ場所に再々発してしまい、腫瘍の摘出のみで約1ヶ月も入院し、何の為に昨年抗癌治療を行ったのかと思いました。

2007年47才の時、この腫瘍が大腿骨に転移してしまい、あまりにも痛かったため同大学病院に駆け込みMRI、CT等で検査したところ、大腿骨が腐っているとのことでした。治療方法は大腿骨の人工骨への入れ替え、もしくは切断でしたが、この時は迷いなく切断(残った部分は約10cmと短断端)を決心しました。術後は幻肢(ない足)の強い痺れ(正座し足が強く痺れ触られた時に痛いという状態)が昼夜問わずあり、眠れませんでした。今でも痺ればなしで特に天気が悪いと痺れが強くなり痛みが変わるため困っています。リハビリは日下病院に転院し、義足は義肢メーカーの川村義肢にて作成してもらい、約5ヶ月程入院し、この時に初めて身体障害者となり3級の手帳をもらいました。

この病気はまだ続き、これ以後の病歴は、2008年肺に転移しラジオ波治療を受けました(入院期間2週間)。2012年頸椎部と腰部に転移し頸椎部は摘出手術、腰部はラジオ波治療を受け(入院期間計約3週間)、同年胸部に転移しラジオ波治療を受けました(入院期間5日間)。2013年大腿骨に転移し凍結治療を受けました(入院期間5日間)。

現在は、幸い順調に回復していますが、この病気は終わりが見えないだけに、自分の生命力が強いのか、腫瘍の毒素が強いのか、今後も命ある限り挑戦です。次に障害者ゴルフについてお話し致します。

ゴルフとの出会いは入社2年目で上司に誘われたのがきっかけでした。当時はスコアよりも飛ばすことが快感だったため、自己流フォームでクラブを振っていました。大自然の中の開放的な空間、自然とともに大地と感化できるスポーツのため病み付きになりましたが、ラウンドは精々月1回でしたのでなかなか上達せず、俗にいう社会人ゴルフを思い切り楽しんでいました。

2007年の切断時には、ゴルフはもう無理だろうと諦めたのですが、入院中義足の情報を携帯ネットで調べていると、偶然障害者がゴルフをしている情報を見つけました。これを見て自分も出来る、諦めてはいけないと星飛雄馬の如く自分の目が燃えているのを実感し、危うく病院を火の海にするところでした。

退院後直ぐに練習場へ行きましたが、うまくスイングできず、トップ・ダフリ・シャンクをしてしまい散々でした。

その後、それなりに打てるようになってきたので、インターネットでいろいろ調べていたところ、2008年7月に中日本身体者ゴルフ大会、また毎年11月3日に津カントリー倶楽部にてザ・チャレンジドゴルフトーナメント厚生労働大臣杯全国身体障害者ゴルフ大会があ

ることが分かり、選手として参加しています。

ここで感じたことは、皆元気でとても明るくパワーがあることでした。障害者ゴルフの部門ですが、私のように肢体の足に障害がある下肢の部、それから上肢の部、片麻痺の部、内部の部、車いすの部及び聴覚障害者の部、視覚障害(弱視、全盲)の部があります。皆様ハンディーの場所は異なるのですが、それぞれ工夫し、器用にラウンドされています。

義足でのゴルフについて私の実践していることは、右足大腿義足で右足には体重をあまりかけられないため、アドレスは左足一本に左股関節を意識して重心をおくことにしています(一軸打法)。バックスイングはコンパクトに、ダウンスイングはその場でクルッと回るイメージで振っています。義足をどこに置くのかが議題であり、アンジュレーションにより前側においたり、後ろ側においたりして工夫しています。動作がどうしても遅くなるので心掛けていることは、飛距離に対する欲は出さずグリーン周りを如何に上手くプレーするか、アプローチの技を磨き1ピン以内に着け1パットで済ませるかを常にトライしています。これが上手くいく場合はスコアも良く、70代で気分も最高ですが、ほとんどNGです。この悔しさがバネになり次こそはとがんばる糧にもなります。

身体障害者のゴルフを始めて物凄く交流が広がり、会社の同僚、学生時代の友人はじめ、障害者仲間、義足屋さん、医者等、様々な方々よりお誘いを受けます。健常時よりもラウンドする機会がたくさん増えました。皆様いい人ばかりでいろいろ気遣ってくれるので嬉しい限りです。こちらにも迷惑が掛からない様に出来るだけ動線はスムーズに、また元気に明るくキビキビと心掛けてラウンドしています。「小野さんと一緒にラウンドすると元気を貰える」とお褒めの言葉を頂くと、障害者大会でのあのパワーを少しでも皆様にお返し出来たかなとほくそ笑んでしまいます。

現在、NPO法人日本ザ・チャレンジドゴルフ協会の実行委員会として大会運営に参加しています。この協会が主催する第14回チャレンジド大会に参加して以来、障害者ゴルフの楽しみにどっぷり浸かっています。障害者ゴルフの皆様は明るく、楽しく、前向きで、勇気と元気を与えてくれます。自分の人生観を大きくかえてくれた先輩方、サポート関係者に感謝し、微力ながら協会運営に携わっていき、また全国各協会開催の大会にも出来る範囲で参加し、親睦を深めていきたいと思っています。

病気・身体障害になって感じたことは、人間一人では生きられない、皆様方に支えられながらお陰様の精神で助け合いながら生かされている、生かして頂いていると気付きました。私の好きな言葉で、『この世で起こることは必然・必要・ベストであり、乗り越えられない苦難は起こらない』という言葉があります。これからも生きている限り、生かされている現実感謝し、ゴルフという素晴らしくも厳しいスポーツへチャレンジして腕を磨き、また肉腫という終わりの見えない病気にもチャレンジして魂を磨いていきたいです。感謝。

例会のご案内

■今週の卓話 6月6日(木)

卓話講師：増田盛英さん(地区ポリオプラス委員長)
鏡味純弥さん(地区ローターアクト代表)
中田真理子さん(名古屋名城RAC会長)
テ－マ：インドNIDに参加して

■次週の卓話 6月13日(木)

会員卓話：高須洋志さん
テ－マ：森の防波堤プロジェクト

■次々週行事 6月20日(木) 第5回クラブフォーラム

内 容：委員会報告と次年度行事予定